

学校教育目標	ともに輝きひびき合う子 ～つながりを生かして学びを深める子どもを育てます～ 〈知〉見通しをもった問題解決力や、豊かな自己表現力を育てます。 〈徳〉互いに認め合い、協働的に生きていこうとする姿勢を育てます。 〈体〉心と体を鍛え、自分や人の命を大切にしようとする姿勢を育てます。 〈公〉社会の一員としての資質を身に付け、まちと共に生きていこうとする姿勢を育てます。 〈開〉わがまちを理解し、社会への視野を広げ貢献しようとする姿勢を育てます。				
	創立 90 周年	学校長 鈴木 正憲	副校長 長井 将吾	2 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 5
学校概要	児童生徒数: 562 人 主な関係校: 横浜市立南中学校・横浜市立大岡小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>〈問題発見・解決能力〉 〈情報活用能力〉 〈言語能力〉 〈持続可能な社会をつくる力〉</p>	<p>南中学校 大岡小学校 井土ヶ谷小学校</p>	<p>「自主性」「自己肯定感」「コミュニケーション力」 ・粘り強く物事に取り組める子ども ・相手の話を受け入れ、さらにより良いものを目指す子ども ・あいさつができる子ども 一ブロック授業研究を行うと共に、「主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニングの視点)からの学習意欲を高める授業」をテーマに教科研を進めます。 ・中学校において、部活動体験などの交流を行うことにより、中1ギャップを解消します。 ・子ども像を共有しながら児童生徒指導や特別支援教育の情報交換を行います。</p>

中期取組目標	<p>○授業のユニバーサル化と学習環境を整備し、子ども一人ひとりに寄り添った、いじめのない風土をつくり、活力と魅力にあふれた学校にします。 ・分かる楽しさが実感できるような教育を推進し、自ら考え、表現できる子の育成を目指し、一人ひとりが自分のよさを見出し、伸ばそうとしながら楽しい学校生活が送れるようにします。 ・子どもたちの思いを受け止め、学力の向上を図るとともに、「生きる力」を育む「子どもが主人公」の学校づくりを推進します。 ・一人ひとりのよさを生かし、家庭・地域・関係機関や公共施設と交流・連携を深め、「ひと」とのつながりを基盤とした誰もが「楽しい」と思える学校創りに努めます。 ・アクティブセンター構想を柱として、つながりを生かした主体的な学びを創造し、問題発見・解決能力、言語能力を育てます。</p>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	①授業のユニバーサル化を意識した授業展開を図るとともに、習熟度別の授業形態を取り入れ、学力向上を目指します。 ②「つながりを生かして学びを深める子どもの育成」を研究主題とし、問題に対して、「ひと」「もの」「経験」を生かして子どもが主体的に解決していける「まなびの環境」を整えます。
徳 豊かな心	①道徳科と他教科・領域や学校行事との関連を意識して道徳科の授業を充実させ、子ども人権会議、市・区子ども会議・横浜国際平和スピーチコンテスト等の活動を通して、多文化共生の心や人権感覚を高めていきます。 ②読書センターの充実を図り、司書教諭、学校司書やボランティアを活用し、豊かな心を育てる読書活動を推進します。
体 健康教育	①規則正しい生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)の定着を図り、バランスイナタイムを中心とした食育と学校保健委員会の充実を図り、家庭と連携しながら、体育科の授業、休み時間等を活かして「体力向上」に努めます。 ②校内放送や食育だより、保健だよりで健康教育に関する情報発信を逐次行います。
公開 安全管理 地域連携	①交通安全教室や防災訓練に参加する中で「自分の身は自分で守る」意識を高め、安全教育の充実を図ります。 ②教職員に安全管理の研修を継続的に行い、不審者対応や地震・災害発生時に命を守る行動ができるようにします。 ③地域と一体となった安全に対する意識を高められるように連携を深めていきます。
いじめへの対応	①全職員が子どもの気持ちに寄り添い、アンテナを高くして、いじめの未然防止・早期発見・積極的認知を行います。 ②月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努めます。児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをします。
人材育成・組織運営(働き方)	①組織・校務分掌のつながりを明確にし、PDCAサイクルを実践しながら人材を育成していきます。 ②組織の効率的な運営を図り、教職員間の情報交換や意見交換が活発に行われるようにします。 ③子どもと向き合う時間の確保を目指して、業務アシスタントの活用や業者を導入するなど業務の効率化を図ります。
アクティブセンター構想	①特別教室の施設をなくし、フリーアクセスとし、アクティブな学びが常にできるように校内環境を整え、活用します。 ②図書館の書籍を校舎の必要な場所に配置し、ICT機器とともに全児童がいつでも情報収集・発信できる環境をつくります。 ・読書センター、メディアセンター、コミュニケーションセンター、アクティブステーション、学習センター、ミーティングスタジオ、Workわ～くスペース等を設置し、活用していきます。
特別支援教育	①高学年に少人数習熟度学習を取り入れ、どの子どもにも学びへの意欲や理解の深まりの機会を保障します。 ②校内特別支援委員会を活性化させ、個別支援学級と一般学級の連携を深め、特別な支援を要する児童への支援の在り方の理解を深めます。 ③関係機関と協力して支援の方法を工夫し、家庭と連携しながら実践していきます。
児童支援	①「いいのちを大切に」「ど」どこでもいつでも「が」外部機関と連携する「や」やさしく寄り添うの「い・ど・が・やの児童支援」を全職員で共有し、支援していきます。 ②児童支援専任を中心に情報を共有し、未然防止と組織的対応に努め、対処療法ではなく、課題を根元から絶つように努めます。
地域学校協働活動	①南中学校ブロックで3校合同の学校運営協議会を設置し、9年間を見通した子どもの育成を地域とともに考えていきます。 ②学校地域学校協働本部、スクールゾーン対策協議会等を活用し、情報交換を密にして、地域との意思疎通を図り、開かれた学校創りを推進します。
担当	交流活動推進部